

肝臓癌の早期発見について

[_____]さま

- 残念ながら、全く体にウイルスの入った事のない方に比べると、あなたは肝臓癌にかかるリスクは高いと考えられます。

- ウイルスが体内に大量にあり、今も増殖している場合、治療し、ウイルス量を下げることによって発癌のリスクを減らすことができます。
- 慢性肝炎→肝硬変に進展するにつれて癌のリスクは上昇します。肝硬変の治療を行なう、または進展を予防することによって将来の発癌リスクを下げるすることができます。

- ただし、発癌そのもののリスクをゼロにすることはできません。

- もっとも有効な手段は、早期発見です。

- たとえば2cmで癌が見つかった場合には、積極的に治療を行い癌を根絶することは可能ですが、5～10cmの大きな状態で見つかった場合、癌は進行しており、治療の選択肢には相当制限されるため、根治的な治療も難しくなります。

- 多くの場合癌は初期には全く症状がありません。また、時に、肝硬変でなくても、正常に近い肝臓からも癌が発生することがあります(特にB型肝炎)。症状がないからといって、画像検査をおろそかにしないようにしましょう。

- 日本肝臓学会ではあなたの肝臓の状態に対しては、癌の早期発見のため少なくとも半年に一度は超音波検査を受けることを推奨しています。CT検査も時に有効です。主治医とも相談しながら、組み合わせて検査を受けましょう。



上記内容を説明しました。

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 科